

# 太田市

## ウェブアクセシビリティガイドライン



### 目次

1. はじめに.....	3
■ 1-1 対象範囲.....	3
■ 1-2 目標とする達成基準.....	3
■ 1-3 検証について.....	3
2. テキストに関するルール.....	4
■ 2-1 機種依存文字.....	4
■ 2-2 文字サイズ.....	5
■ 2-3 文字色.....	5
■ 2-4 数字.....	5
■ 2-5 年月日や時刻、通貨の表記.....	6
■ 2-6 「スペース」と「改行」.....	6
3. テキスト以外のルール.....	7
■ 3-1 画像データについて.....	7
■ 3-2 音声データについて.....	9
■ 3-3 動画データについて.....	9
■ 3-4 PDF データについて.....	9
■ 3-5 音声・動画・アプリケーションソフト等を使う情報について.....	10
■ 3-6 言語について.....	10
■ 3-7 省略語・専門用語・難しい用語.....	10
4. 文章構成・表示に関するルール.....	11

---

■ 4-1 見出し・リストの使用について	11
■ 4-2 ページタイトルについて	11
■ 4-3 現在位置の情報	12
■ 4-4 ナビゲーション	12
■ 4-5 一貫した識別性	12
<b>5. 表のルール</b>	<b>13</b>
<b>6. リンクに関するルール</b>	<b>14</b>
■ 6-1 リンクの目的	14
■ 6-2 別ウィンドウ表示使用について	14
■ 6-3 PDF ファイルへのリンク設定について	15
<b>7. 操作に関するルール</b>	<b>16</b>
■ 7-1 キーボードによる操作	16
■ 7-2 フォーカス移動	16
■ 7-3 フォーカス順序	17
■ 7-4 フォーカスの可視化	17
■ 7-5 オンフォーカス	18
■ 7-6 ブロック・スキップ	18
■ 7-7 複数の到達手段	18
<b>8. 時間経過に伴って変化するメディアのルール</b>	<b>19</b>
■ 8-1 音声ガイド・代替コンテンツの提供	19
■ 8-2 キャプションの提供	19
■ 8-3 音声制御	20
<b>9. 色・形に関するルール</b>	<b>21</b>
■ 9-1 色を使用した区別	21
■ 9-2 形や位置による表現	22
■ 9-3 画像内に配置された文字色のコントラスト	23
<b>10. 動作するコンテンツ表示のルール</b>	<b>24</b>
■ 10-1 一時停止、停止および非表示	24
■ 10-2 点滅	24
<b>11. コンテンツの制限時間に関するルール</b>	<b>25</b>
<b>入力フォームのルール</b>	<b>26</b>
■ 11-1 エラーの特定	26
■ 11-2 エラー修正の提案	26
■ 11-3 ラベルまたは説明	26

---

# 1. はじめに

太田市ホームページ(<http://www.city.ota.gunma.jp/>で始まるページすべてを指します。)は、太田市が市民の皆様の暮らしに役立てていただくこと、市民の皆様ほか多くの方々に太田市の魅力を伝えることを目的に情報提供を行います。

また、正確で迅速な情報の提供を目指すことはもちろん、年齢や身体的条件、特定の持病の有無、閲覧環境にかかわらず、多くの利用者が同様に利用し情報を取得することができる、ウェブアクセシビリティに配慮されたホームページであることを基本方針としています。

## ■ 1-1 対象範囲

太田市ホームページ (<http://www.city.ota.gunma.jp/>で始まるページすべてを指します。)

・ [City of Ota's Official Web Site 太田市ホームページ](#)

## ■ 1-2 目標とする達成基準

日本工業規格（JIS X 8341-3）の「等級 AA」に準拠する事を目標とします。

## ■ 1-3 検証について

ウェブアクセシビリティ対応状況については、本ガイドラインやチェックツールを使用し、ページ作成・更新時に検証を行います。

## 2. テキストに関するルール

### ■ 2-1 機種依存文字

#### 【ルール】

機種依存文字、外字、半角カナは使用しない

#### 【目的】

機種依存文字を使用すると、閲覧者の OS やブラウザの環境によって正しく表示されないことがあります。また、「吉」「崎」などの外字も利用者の使用環境によっては表示がされない事があるので、外字ではない文字を使用し代替表記し、補足説明を追加しておきます。

半角カナは、環境によって文字化けすることがあるので、全角のカタカナを使用してください。

#### 【代表的な機種依存文字】

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳  
 i ii iii iv v vi vii viii ix x I II III IV V VI VII VIII IX X  
 ミリ キロ セン ゼル グラ トン アル ゼル ツル ツル ツル ツル ツル ツル ツル ツル  
 mm cm km mg kg cc m<sup>2</sup>  
 平成 明治 大正 昭和 " „ No. K.K. TEL ⊕ ⊕ ⊕ ⊕ ⊕ (株) (有) (代)  
 ≡ ≡ ∫ ∫ ∑ √ ⊥ ∠ ⊂ ∴ ∩ U

#### 【対応例：機種依存文字の使用について】

##### ×悪い例

(株) サンプル

機種依存文字



##### ○良い例

【株】 サンプル

機種依存文字は使用せずに、  
カッコ書きで【(株)】と表記します。

## ■ 2-2 文字サイズ

### 【ルール】

利用者がテキストのサイズを任意で 200%までサイズを変更できるようにする。

### 【目的】

高齢者などがサイトを利用することを考慮し、任意で文字サイズを変更することができるように文字サイズは絶対値で入力しない。なお、CMS から入力したテキストは相対値で指定されるので任意で文字サイズが変更できます。

## ■ 2-3 文字色

### 【ルール】

文字の背景色と前景色のコントラストに配慮し使用する。

### 【目的】

文字色と背景色のコントラストを十分に確保できていない場合、高齢者をはじめとする多くの利用者は内容を認識することができないためです。なお、使用できる文字色は CMS 上で制限しているので、CMS 上で文字色を変更していればコントラストは確保できます。

## ■ 2-4 数字

### 【ルール】

数値に「半角数字」と「全角数字」を混在させない。

### 【目的】

数値に「半角数字」「全角数字」が混在していると、音声読み上げブラウザで桁を把握することができず、正しく読み上げられません。基本的に数値は半角記載します。

### 【対応例：全角数字と半角数字を混在させた際の読み上げ例】

- ・ 【×悪い例】 1,000円 ⇒ 【○良い例】 1,000円

【悪い例】は音声読み上げブラウザで読み上げると【イチ カンマ ゼロ ゼロ ゼロ エン】と読み上げられます。

## ■ 2-5 年月日や時刻、通貨の表記

### 【ルール】

年月日によく使われるスラッシュ(/)や時刻に使われるコロン(:)などの記号は使用しない。

### 【目的】

記号を使用し表記した場合、音声読み上げブラウザで意図としない内容で読み上げられるため。

### 【対応例：スラッシュ記号を使用した、日付の表記について】

- ・ **【×悪い例】** 7/30 ⇒ **【○良い例】** 7月30日  
スラッシュ記号で表記した場合、分数として認識されます。

### 【対応例：コロンを使用した、時間の表記について】

- ・ **【×悪い例】** 9:00 ⇒ **【○良い例】** 9時  
読み上げられた際、【キュウ コロン ゼロ ゼロ】となります。

## ■ 2-6 「スペース」と「改行」

### 【ルール】

文中にレイアウト目的でスペースや改行を使用しない

### 【目的】

音声読み上げブラウザでは改行箇所、スペースで休止します。その為、意図としない内容で文章が読み上げられてしまいます。また、利用者によっては文字サイズを変更していることもあるので、作成者の想定していない箇所で改行されることもあります。

### 【対応例：文字間にスペースを入れた場合の読み上げ例】

- ・ **【×悪い例】** 戸 籍 ⇒ **【○良い例】** 戸籍  
【悪い例】は音声読み上げブラウザで【ト セキ】と読み上げられます。

## 3. テキスト以外のルール

### ■ 3-1 画像データについて

#### 【ルール】

ページ内で画像を掲載する場合には、必ず画像の内容が伝わるような「代替文字」を設定する。

#### 【目的】

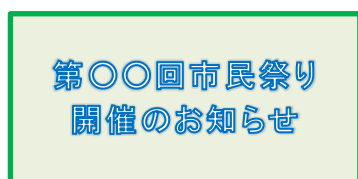
画像を非表示にしている状態や音声読み上げブラウザでページを閲覧している場合、画像に代替文字が入力されていないと画像の内容を把握することができません。画像の意図や役割が適切に伝わる代替文字を入力するようにします。

また、画像にリンクが設定されている場合は、代替文字には画像の説明よりもリンク先の情報を優先し入力します。画像の説明だけでリンク先に推移するか判断が必要な為です。

なお、箇条書きのマークなど意味を持たない画像には代替文字は必要ありません。

#### 【対応例：画像内に文字が表記されている場合の代替文字】

##### 【×悪い例】

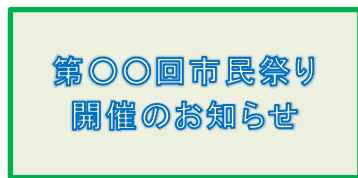


日時：2017年3月17日  
場所：〇〇公園

代替文字【設定なし】

左記の画像に代替文字を設定しない場合、音声読み上げブラウザでは、何も読み上げられず、次に表記された「日時と場所」だけが読み上げられます。

##### 【〇良い例】



日時：2017年3月17日 9時～  
場所：〇〇公園

代替文字  
【第〇〇回市民祭り開催のお知らせ】

代替文字を設定することで、音声読み上げブラウザで【第〇〇回市民祭り開催のお知らせ】と読み上げられるので、利用者に正しい情報を伝えられます。

---

**【対応例：画像にリンクが設定されている場合の代替文字】****【×悪い例】****【代替文字例】**

「http://～」とリンク先の URL が読み上げられます。

画像にリンク設定をし代替文字を何も設定していない場合は、音声読み上げブラウザではリンク先の URL が読み上げられてしまい、リンク先の正しい内容を伝えることが難しいです。

**【○良い例】****【代替文字例】**

「アドビリーダーのダウンロードページへ」

代替文字に「アドビリーダーのダウンロードページへ」と設定することで、利用者に正しい情報を伝えることができます。

---



## ■ 3-2 音声データについて

### 【ルール】

ページ内で音声データを掲載する場合、音声データの内容に合ったテキストデータを合わせて提供する。

### 【目的】

聴覚に障がいがある方や高齢者は、音声データの内容を聞き取ることが難しい可能性があります。その為、テキストデータで代替情報を合わせて提供します。

## ■ 3-3 動画データについて

### 【ルール】

動画(アニメーション)など時間によって変化するコンテンツをページ内で掲載する場合、どのように動きが変化しているかや音声情報などを説明する代替情報を提供する。

### 【目的】

視覚障がい者、聴覚障がい者、高齢者などは、動画(アニメーション)で提供された情報を把握することが難しい場合があります。その為、テキスト情報などで代替情報を合わせて提供します。

## ■ 3-4 PDF データについて

### 【ルール】

ファイルサイズが大きい PDF データを掲載する場合、ファイルを分割し掲載する。また、スキャンしたデータはなるべく使用せず Word 等で作成したデータを掲載する。

### 【目的】

ファイルサイズが大きな PDF をページに掲載すると、環境によってはダウンロードに時間がかかってしまいます。その為、分割し利用者の負担を減らすことが必要です。

また、スキャンしたデータは内容を正しく読み取ることができない場合があるので、Word 等のアプリケーションソフトを使用し PDF を作成します。

## ■ 3-5 音声・動画・アプリケーションソフト等を使う情報について

### 【ルール】

利用者の環境に依存するデータを提供する場合、提供する情報の内容を説明するテキストデータや代替情報を一緒に提供する。

### 【目的】

音声・動画・アプリケーションソフト等、利用者の環境に依存するデータを提供する場合、環境によっては内容を読み取ることができない利用者もいるので代替情報を提供する等の検討が必要です。

## ■ 3-6 言語について

### 【ルール】

それぞれのページでデフォルトの自然言語がどの言語であるか、プログラムによる解釈が可能である。

### 【目的】

ページ上ではコンテンツのデフォルトの自然言語を明示しなければなりません。なお、CMS からページを作成・更新する場合は自然言語がもとから入ります。

## ■ 3-7 省略語・専門用語・難しい用語

### 【ルール】

読みや意味が分かりづらい固有名詞・専門用語には極力読み仮名や注釈を付けます

### 【目的】

一般的でない専門用語や地名や人名の固有名詞は音声ブラウザの辞書に登録されていない可能性があり正しく読み上げられません。

また、通常のブラウザを使っている人にとっても意味が理解出来ない単語があることは望ましくありません。そのような用語は、ページ内の最初に出てくる場所でカッコ書きの読み仮名や意味を明記するようにします

### 【対応例】

### 【○良い例】

- ・ FIFA（国際サッカー連盟）は 1904 年に創立しました。

## 4. 文章構成・表示に関するルール

### ■ 4-1 見出し・リストの使用について

#### 【ルール】

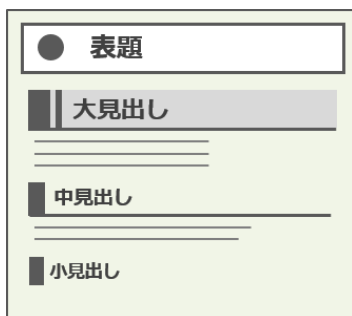
「見出し」要素は HTML の文法に則って使用します。また、「箇条書き」ページで掲載する場合は「リスト」要素を使用する。

#### 【目的】

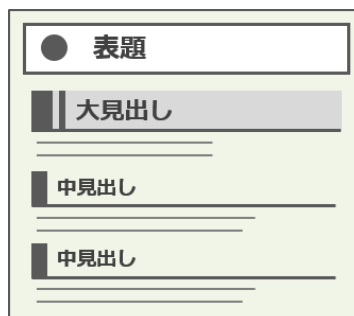
見出しはページの上から順に、「大見出し(h2)」、「中見出し(h3)」、「小見出し(h4)」の順で掲載することで、様々な人にとってわかりやすい内容になります。また、箇条書きは「リスト」要素を使用することでサイト内でデザインの統一することもできます。

#### 【対応例：見出し要素の使用について】

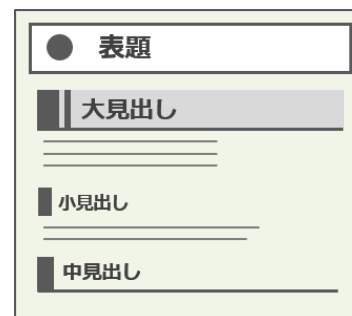
##### 【○良い例】



##### 【○良い例】



##### 【×悪い例】



### ■ 4-2 ページタイトルについて

#### 【ルール】

ページの内容が伝わるタイトルを設定する。

#### 【目的】

ページタイトルは音声読み上げブラウザで読み上げられる文字になります。わかりにくいタイトルを設定すると正しくページの内容を把握することができません。

また、同じ内容のページタイトルが設定されたページがある場合も混乱を招くので、ページの内容に合ったタイトルを設定します。

## ■ 4-3 現在位置の情報

### 【ルール】

利用者が現在どこにいるのか把握できる、現在位置を示す情報として「パンくずリスト」を表示する。

### 【目的】

利用者が閲覧しているページがサイト内でどこに位置するのかわかりやすく伝えることができ、混乱を防ぐことができる。また、パンくずリストはサイト内で共通の位置に設置することも混乱を防ぐことにつながる。

## ■ 4-4 ナビゲーション

### 【ルール】

ウェブページ式の中にある複数のウェブページ上で繰り返されているナビゲーションのメカニズムは、繰り返されるたびに 相対的に同じ順序で出現する。ただし、利用者が変更した場合は除く。

### 【目的】

ページ内で繰り返し利用されるコンテンツ（「ロゴ」、「検索フォーム」、「ナビゲーションバー」等）は、どのページでも相対的に同じ順序で利用者に提示する必要があります。

相対的に同じ順序で提示することで自分の探しているコンテンツの位置を予測できるようにして、より素早く見つけることができるようにする。

## ■ 4-5 一貫した識別性

### 【ルール】

ウェブページ式の中で同じ機能を有するコンポーネントは、一貫して識別できる。

### 【目的】

同じ機能が複数のページで異なった表記がされていると、サイト自体が使いづらいものになってしまいます。認知的負担を軽減するためにも同じような機能は一貫した表記をする必要があります。

※ 同じ機能を持つコンポーネントとは（アイコンやサイト内検索の検索ボタン等）

## 5. 表のルール

### 【ルール】

データのための表は、できるだけ読み上げ順序を考慮した正しい構造で記述する。

### 【目的】

音声ブラウザは、基本的には表を左上から右下に1セルずつ読み上げます。その為、表の構造はこれを意識して作成するよう心がけます。

見出しセル(th)も音声ブラウザでの読み上げ時に表の構成を示す大事な要素ですので、極力設定するようにします。

また、大きすぎる表や、セルを必要以上に結合した表は、一覧性が悪くなり、特に音声ブラウザでは内容の把握が難しくなるので、できるだけ避けます。

### 【対応例：表の読み上げについて】

#### 【表が読み上げられる順番について】

1	→	2	→	3	→	
→	4	→	5	→	6	→
→	7	→	8	→	9	

音声読み上げブラウザでは左上から順に右下に向かって1セル毎に読み上げられます。

#### 【表題と見出しが設定されている場合の読み上げ例】

各施設の料金表

施設名	料金	時間
野球場	5,000円	3時間
テニスコート	2,000円	1時間
サッカー上	5,000円	2時間

#### 【読み上げ例(2行目)】

【施設名 野球場 料金 5,000円 時間 3時間】

## 6. リンクに関するルール

### ■ 6-1 リンクの目的

#### 【ルール】

リンク文字は、リンク先の内容が理解できる表現で記述します

#### 【目的】

音声ブラウザにはリンク部分のみを抜粋して読み上げる機能があります。このとき「ここ」や「詳細はこちら」など指示代名詞だけで、前後の文字情報がない場合、リンク先の情報が理解できないのでせっかくの機能が意味を成さなくなります。

#### 【対応例：リンクの表現方法】

##### 【×悪い例】

説明会の詳細は[こちら](#)をクリック。

参加申込書データは、[ここ](#)からダウンロード。

##### 【○良い例】

[説明会の詳細](#)はこちらをクリック。

[参加申込書データ](#)は、ここからダウンロード。

### ■ 6-2 別ウィンドウ表示使用について

#### 【ルール】

リンク設定時に「別ウィンドウ表示」にするのは、「サイト内以外のページにリンク設定する場合」、「PDF、Word、Excel といったファイルにリンク設定する場合」のみにする。

#### 【目的】

視覚に障害のある人や高齢者など多くの利用者は、新しいウィンドウが開いたことに気がつかないか、または、その変化に戸惑う場合があります。新しいウィンドウでは戻るボタンで元のページに戻れないのでさらに戸惑いを招く場合もあります

また、たくさん開いたウィンドウを後から閉じる操作は上肢に障害のある人にとっては困難な操作です。別ウィンドウ表示の使用は状況に応じて使用してください。

#### 【対応例：別ウィンドウ表示が必要な例】

- ・ 他ドメイン（例：総務省のホームページ等）へのリンク
- ・ ヘルプなど同時に参照したいページへのリンク
- ・ PDF や Word、Excel といったファイルへのリンク

---

## ■ 6-3 PDF ファイルへのリンク設定について

### 【ルール】

PDF へのリンクは新しいウィンドウで開くように設定する。

### 【目的】

PDF をブラウザで表示して見終わった後に誤ってブラウザを閉じる人がいます。この場合、それまでのウィンドウに PDF を表示していると、元のページに戻ることが出来なくなるため PDF へのリンクは別ウィンドウで開くようにします。ワードやエクセルファイルも同様です。

---

## 7. 操作に関するルール

### ■ 7-1 キーボードによる操作

#### 【ルール】

コンテンツのすべての機能は、個々のキーストロークに特定のタイミングを要することなく、キーボードインタフェースを通じて操作可能である。

ただし、その根本的な機能が利用者の動作による始点から終点まで続く一連の軌跡に依存して実現されている場合は除く。

#### 【目的】

ページ内の機能全てをキーボードだけでも、同じように操作できるようにします。利用者の環境によってはマウスを使うことができなく、キーボードだけで操作していることもあるためです。

なお、ページ上の「メニューボタン」や「リンク」、「フォーム」などは CMS から作成することで、キーボードだけでも操作することが可能です。

### ■ 7-2 フォーカス移動

#### 【ルール】

キーボードインタフェースを用いてキーボードフォーカスをそのウェブページのあるコンポーネントに移動できる場合、キーボードインタフェースだけを用いてそのコンポーネントからフォーカスを外すことが可能である。

さらに、修飾キーを伴わない矢印キー、Tab キー、又はフォーカスを外すその他の標準的な方法でフォーカスを外せない場合は、フォーカスを外す方法が利用者に通知される。

#### 【目的】

利用者がキーボード操作でフォーカス移動している際、コンテンツの一部に閉じ込められないようにしなければならないので、キー操作以外で抜け出すことができる場合はその方法をページ上に記載しておく。なお、特殊なプラグインや埋め込みアプリケーション等をページ上で使用している場合、フォーカスが閉じ込められることがあるが、CMS から特殊なプラグインをページ上に追加できないよう制限している。



### ■ 7-3 フォーカス順序

#### 【ルール】

ウェブページが順を追ってナビゲートできて、そのナビゲーション順が意味又は操作に影響を及ぼす場合、フォーカス可能なコンポーネントは、意味及び操作性を損なわない順序でフォーカスを受け取れるようにする。

#### 【目的】

利用者がキーボード操作する場合、コンテンツの内容を1つずつ順を追って行き来でき、操作可能な順序でコンテンツの意味に沿って情報を正しく取得できるようにする必要があるため。

### ■ 7-4 フォーカスの可視化

#### 【ルール】

キーボード操作が可能なあらゆるユーザインタフェースには、フォーカスインジケータが見える操作モードがある。

#### 【目的】

利用者がキーボード操作をしている際に、複数の要素のうちどの要素がフォーカスを持っているか利用者が認識しやすくすることである。スクリーン上にキーボード操作可能な要素が1つだけある場合には、視覚的にはキーボード操作可能な要素を1つだけ提示するため、達成基準が満たされることになる。

認識しやすくする必要がある要素としては、「リンク」「フォーム内のボタン(チェックボタンやラジオボタン)」等があるが、CMS から要素を追加すれば利用者が認識しやすい表記がされる。

## ■ 7-5 オンフォーカス

### 【ルール】

いずれのコンポーネントも、フォーカスを受け取ったときに コンテキストの変化を引き起こさない。

### 【目的】

フォーカスを受け取ることのできる「リンク」や「フォームボタン」は、フォーカスを受け取ったときに状況の変化が起こらないようにします。

なお、状況の変化とは以下のようなものになります。

- ・ コンポーネントがフォーカスを受け取ると自動的に送信されてしまうフォーム。
- ・ フォーカスを受け取ると新しいウィンドウを開くコンポーネント
- ・ フォーカスを受け取ると他のコンポーネントにフォーカスを移動するコンポーネント

## ■ 7-6 ブロック・スキップ

### 【ルール】

複数のウェブページ上で繰り返されているコンテンツのブロックをスキップするメカニズムが利用できる。

### 【目的】

メインコンテンツ部分の前に、複数のページで繰り返し使用されている「グローバルナビ」や「ヘッダー」が設置されている場合、ページの先頭からメインコンテンツ開始位置まで「スキップできる機能」を提供する必要がある。

この機能は主に「キーボードのみで操作している利用者」や「音声読み上げブラウザを使用している利用者」

## ■ 7-7 複数の到達手段

### 【ルール】

サイト内であるページあるウェブページを見つける複数の手段が利用できる。ただし、ウェブページが一連のプロセスの中の 1 ステップ又は結果である場合は除く。

### 【目的】

利用者がサイト内で目的のコンテンツを見つける手段を複数用意しておく。方法としては「サイトマップを用意する」、「サイト内検索機能を設ける」などを提供する。

## 8. 時間経過に伴って変化するメディアのルール

### ■ 8-1 音声ガイド・代替コンテンツの提供

#### 【ルール】

同期したメディアに含まれている収録済の映像コンテンツに対して、時間依存メディアに対する代替コンテンツ又は音声解説が提供されている。

ただし、その同期したメディアがメディアによるテキストの代替であって、メディアによる代替であることが明確にラベル付けされている場合は除く。

#### 【目的】

視覚に障がいがある利用者が同期したメディアの情報を入手できるように、同期したメディア（映像コンテンツ）を掲載する場合は、映像で伝えている情報をテキスト形式（代替コンテンツ）で提供するか、音声ガイドを映像コンテンツと一緒に提供する必要がある。

利用者が映像の情報を入手できない場合のために、利用者が必要とする情報をそのコンテンツの音声部分に加えて、映像コンテンツを増補するもの。動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報のうち、コンテンツを理解する上で重要で、かつ主音声では説明されていなかったり、話されていない情報を、音声ガイドで提供する

### ■ 8-2 キャプションの提供

#### 【ルール】

同期したメディアに含まれているすべての収録済の音声コンテンツに対して、キャプションが提供されている。ただし、その同期したメディアがメディアによるテキストの代替であって、メディアによる代替であることが明確にラベル付けされている場合は除く。

#### 【目的】

収録済みの同期したメディアを掲載する場合は、音声で提供している情報をテキスト形式で用意し、映像コンテンツの画面上にキャプションとして提供する必要がある。

音声の情報は聴覚に障がいがある利用者は入手が難しいので、音声を聞くことなく情報を伝えられるようにキャプションで情報を提供する必要があります。

## ■ 8-3 音声制御

### 【ルール】

ウェブページ上にある音声自動的に再生され、3秒より長く続く場合、その音声を一時停止又は停止するメカニズム、もしくはシステム全体の音量レベルに影響を与えずに音量レベルを調整できるメカニズムを提供する。

### 【目的】

音声読み上げブラウザを使用している利用者は同時に他の音声再生されると、音声読み上げブラウザで読み上げられている音声聞き取りづらくなります。

その為、ページ上で自動的に音声再生され3秒より長く続く場合は、一時停止または停止できるようにする必要がある。基本的に音声は自動再生させないことが推奨となる。

## 9. 色・形に関するルール

### ■ 9-1 色を使用した区別

#### 【ルール】

色のみで「情報を伝える」、「動作を示す」、「反応を促す」表記はしない。

#### 【目的】

色覚障がいのある利用者や音声読み上げブラウザを使用している利用者は、色の違いを区別することが難しいのです。

その為、「赤字はエラー(例)」や「必須項目は赤字です(例)」など、色の違いだけで情報の違いを表現されると正しく意図が伝わらないので、テキスト情報で表記します。

#### 【対応例：文字情報に色を使う場合】

##### 【×悪い例】

お問い合わせフォーム

※赤字の箇所は必須項目です。

お名前

メールアドレス

電話番号

送信

色情報が無い場合

お問い合わせフォーム

※赤字の箇所は必須項目です。

お名前

メールアドレス

電話番号

送信

##### 【○良い例】

お問い合わせフォーム

※赤字の箇所は必須項目です。

お名前 (必須)

メールアドレス (必須)

電話番号

送信

色情報が無い場合

お問い合わせフォーム

※赤字の箇所は必須項目です。

お名前 (必須)

メールアドレス (必須)

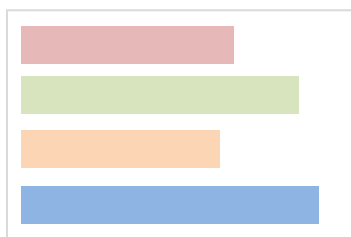
電話番号

送信

色情報が無い状態でも情報が伝わるような表記を行う必要があります。特に重要な情報などは色情報だけに頼らず、テキストデータなども一緒に表記する工夫が必要です。

## 【対応例：色を使った表について】

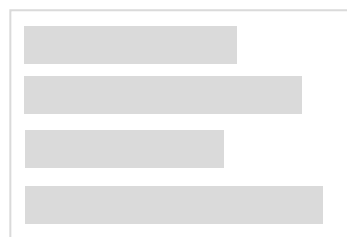
## 【×悪い例】



A B C D

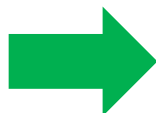
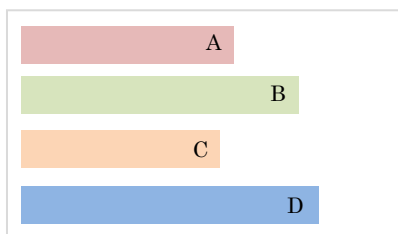


色情報が無い場合

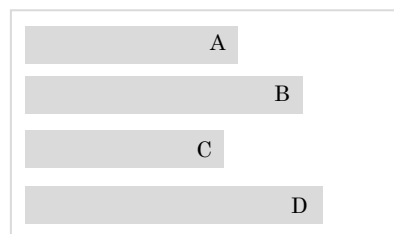


A B C D

## 【○良い例】



色情報が無い場合



色情報が無い場合でも情報が伝わるように、各データの上にテキストデータを載せたり各データを色で区別するのではなく、模様などで表記する。

## ■ 9-2 形や位置による表現

## 【ルール】

ページ内にあるコンテンツを利用者に識別してもらう場合、形や位置だけでの説明しない。

## 【目的】

コンテンツによっては、コンテンツの構造からは入手できない対象の形または位置に依存していることがある。障害のある利用者は、使用している支援技術の性質のために、形または配置を知覚できないことがある。この達成基準は、

このような情報に依存しているあらゆるものを明確にするために、補足の情報としてテキストデータを提供します。

## ■ 9-3 画像内に配置された文字色のコントラスト

### 【ルール】

画像内に文字が配置されている場合は、文字の背景色と前景色のコントラストに配慮し使用する。

### 【目的】

画像内の文字色と背景色のコントラストを十分に確保できていない場合、高齢者をはじめとする多くの利用者は内容を認識することができないため、画像内に文字が配置された画像を使用する場合は文字を識別しやすい画像を使用する。

なお、コントラストの確認にはフリーツールの「カラーコントラストアナライザー」などが使用できません。

## 10. 動作するコンテンツ表示のルール

### ■ 10-1 一時停止、停止および非表示

#### 【ルール】

動きのある、点滅している、スクロールする、又は自動更新する情報は、次のすべての事項を満たしている。

- ・ 自動的に開始する
- ・ 5 秒よりも長く継続する
- ・ 他のコンテンツと並行して提示する場合、利用者が一時停止、停止または非表示にすることができる(ただし、その動きが点滅、またはスクロールが必要不可欠な動作の一部である場合は除く)」

#### 【目的】

動きのあるコンテンツは高齢者や視覚に障がいがある利用者によっては認識し辛いことが多いため。

### ■ 10-2 点滅

#### 【ルール】

ページ上では 1 秒間に 3 回を超える点滅をするコンテンツを使用しない。

#### 【目的】

光過敏性発作の疾患のある利用者は、数回以上の閃光があり、一定の周期で閃光を放つコンテンツによって発作を引き起こされる恐れがあるため、1 秒間に 3 回を超えるするコンテンツは使用しない。



## 11. コンテンツの制限時間に関するルール

### 【ルール】

コンテンツに制限時間を設ける場合、次に示す事項のうち、少なくとも1つは満たす。

- ・ 解除 ~ 制限時間があるコンテンツを利用する前に、利用者がその制限時間を解除することができる。
- ・ 調整 ~ 制限時間があるコンテンツを利用する前に、利用者が少なくともデフォルト設定の10倍を超える、大幅な制限時間の調整をすることができる
- ・ 延長 ~ 時間切れになる前に利用者に警告し、かつ少なくとも20秒間の猶予をもって、例えば「スペースキーを押す」などの簡単な操作により、利用者が制限時間を少なくとも10倍以上延長することができる。
- ・ リアルタイムの例外 ~ リアルタイムのイベント（例えば、オークション）において制限時間が必須の要素で、その制限時間に代わる手段が存在しない。
- ・ 必要不可欠な例外 ~ 制限時間が必要不可欠なもので、制限時間を延長することがコンテンツの動作を無効にすることになる。
- ・ 20時間の例外 ~ 制限時間が20時間よりも長い。

### 【目的】

コンテンツに制限時間が設けられていると、利用者によっては制限時間内に全ての作業を完了させることが難しい場合があるので、操作するのに十分な時間の可能な限り保証する必要があるためです。

## 入力フォームのルール

### ■ 11-1 エラーの特定

#### 【ルール】

入力エラーが自動的に検出された場合は、エラーとなっている箇所が特定され、そのエラーが利用者にテキストで説明される。

#### 【目的】

利用者がエラーの発生に気づき、何が誤っていたのかわかるようにする必要があるため。例えば音声読み上げブラウザを使用しているユーザはエラー表示が読み上げられなければ、「エラーが起きていること」や「エラーの箇所・内容」を知ることができないためです。

### ■ 11-2 エラー修正の提案

#### 【ルール】

入力エラーが自動的に検出され、修正方法を提案できる場合、その提案が利用者に提示される。ただし、セキュリティ又はコンテンツの目的を損なう場合は除く。

#### 【目的】

「入力エラー」がわかったとしても、エラーの修正方法がわからなければ修正することが難しいため、エラーメッセージなどで修正方法をわかりやすく説明する必要があります。

### ■ 11-3 ラベルまたは説明

#### 【ルール】

コンテンツが利用者の入力を要求する場合は、ラベル又は説明文を提供する。

#### 【目的】

どのような入力データが期待されているのかを利用者が理解できるようにする。方法としては、フォーム内のコントロールを識別するための説明文またはラベルをコンテンツ制作者が配置する。